

# 地域おこし協力隊通信

第19回



リポーター  
小林正英 隊員



皆さん初めまして！  
19回目の協力隊通信です。今回は、11月2日から潮来市地域おこし協力隊として活動する私、小林正英の自己紹介をさせていただきます。

突然ですが、私には目標があります。その目標をかなえるため、地域おこし協力隊になりました。協力隊になる前もさまざまな目標を立てて、成功も挫折も味わいました。お笑い芸人、料理人、数学者、作家などなど真剣に目指したものの、半分お遊びで目指したもので、半分以上は私自身です。そんな私が、今回目標にしたものが起業。

私は、大学生のころから、漠然とではありませんが、将来は起業して様々なサービスを創って生きていきたいと考えていました。皆さんも今まで生きてきて、少なくとも一度は起業について考えたことはあり

ませんか？時間とお金に縛られない自由な生活、働きたいときに働き、行きたいところに行ける、かつ自分が創ったサービスが世の中のためになっている。そんな生活って最高ですよね。これが、私が起業家を目指した理由の一つです。本当はまだまだ、起業の思いについて書きたいのですが、このくらいにします。

さて、ではなぜ地域おこし協力隊なのか。実は私、北海道の長沼町というところで役場職員として、働いていたことがありますが、その時に地域振興に興味を持ちました。本当はその経緯も詳しく書きたいのですが、別の機会にさせていただきます。

地域振興と起業、この2つをかなえるため、地域おこし協力隊になりました。いろいろとご迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしく願います。

## まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

# 潮来市の誇れる自然

## 投網体験教室「霞ヶ浦・北浦の魚たち」を開催

第58回



家族で投網体験中



透明な体のシラウオ



ニゴイの顔

霞ヶ浦・北浦で魚類調査をしていると、通りすがりの方々から「魚はあまり採れないでしょ？何が採れる？外来種ばかりでしょ？」と質問攻めにあります。マスメディアや漁師さんからの情報で、魚の生息数の減少や在来種から外来種への置き換わり現象などをご存知な方が多いようです。

こういった魚類の生息状況のデータを厳密にとるのは、意外と難しいです。水の透明度が高い湖であれば、潜水観察などの種類がどのくらいの量で生息しているのかはすぐにはわかりません。しかし、透明度が低い霞ヶ浦・北浦では潜水観察はできず、対象魚の生息に応じて様々な漁具を駆使してデータを集めています。遊泳魚の生息調査で便利なのが「投網」です。円錐形の網で、底辺にオモリが付いています。独特の手取りと構え（複数の流派あり）から遠心力を使って底辺が丸くなるように投げ広げた後、引き寄せながら網をすぼめて魚を捕まえます。小学

生高学年以上であれば、練習しだいで打てるようになります。

11月7日（土）、水戸市立博物館とのコラボ企画で北浦での投網体験教室を開催し、小学生とその保護者およそ20名が集まりました。まずは教員と研究室の学生たちの指導のもと、陸地で練習。コツがつかめたら、湖岸から投網を打ちました。投網は重くて小学生には扱いづらかったのですが、親御さんのなかには上手に丸く広げる方もいました。採れたのは大量のボラのほか、ニゴイや透明なシラウオ、マハゼ、チャネルキャットフィッシュ、テナガエビなど。親御さんの熱中ぶりをみて、次に希望があれば大人向け投網教室もやりたくくなりました。秋の水辺で運動しながら湖の魚について知っていただく良い機会となりました。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション  
碓井 星二・加納 光樹